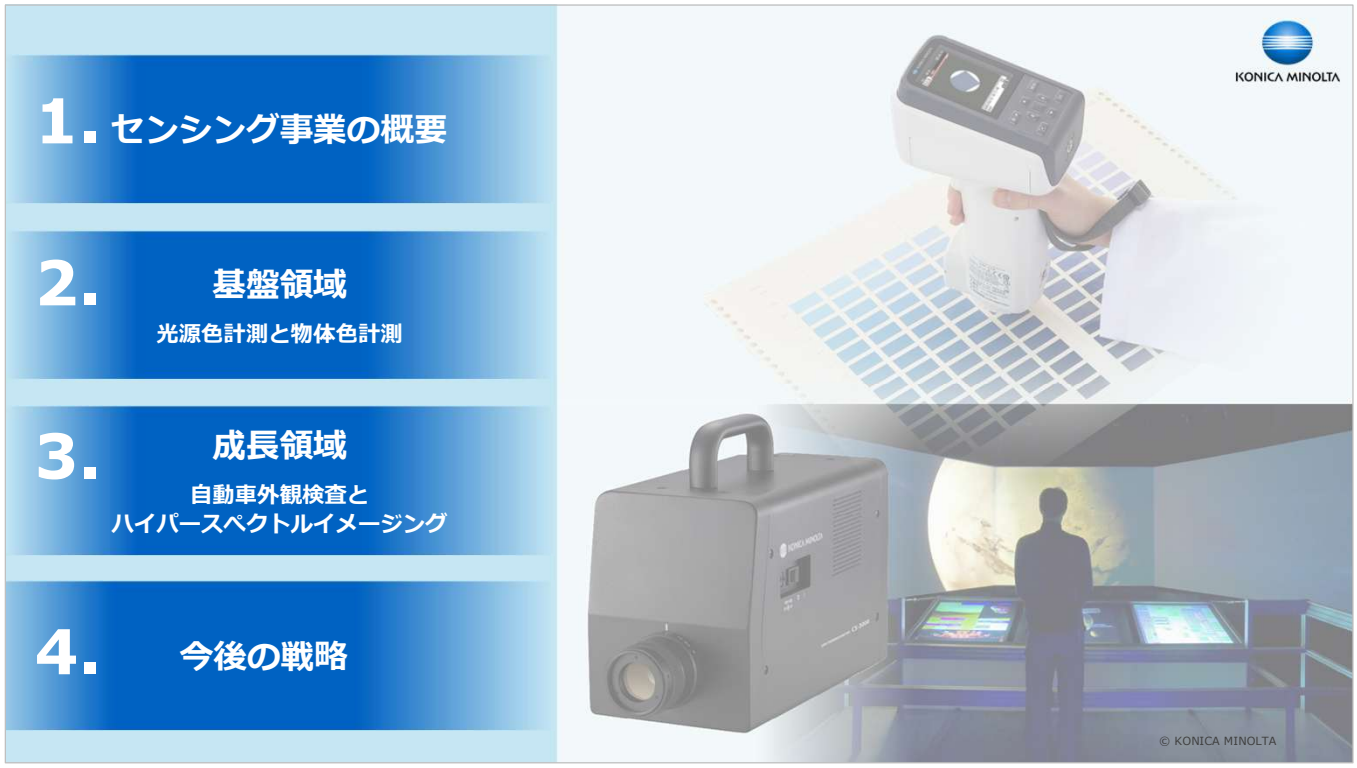
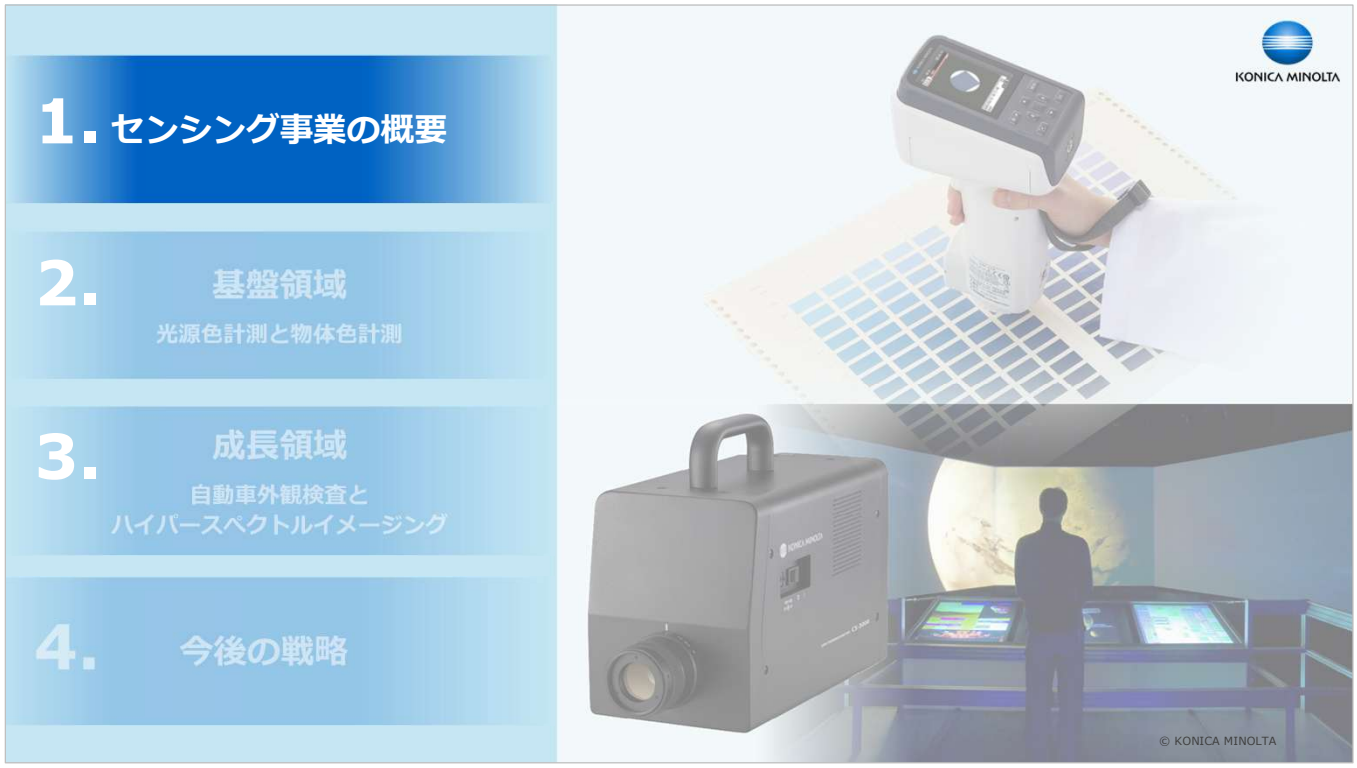


皆さま、こんにちは。センシング事業を担当しております、三上です。
本日は、センシング事業の成長戦略についてご説明します。



まずは、センシング事業の概要をご説明します。次に、これまで事業を支えてきた基盤領域。その後に成長領域、最後に、今後の戦略についてご説明します。



センシング事業の概要についてご説明します。

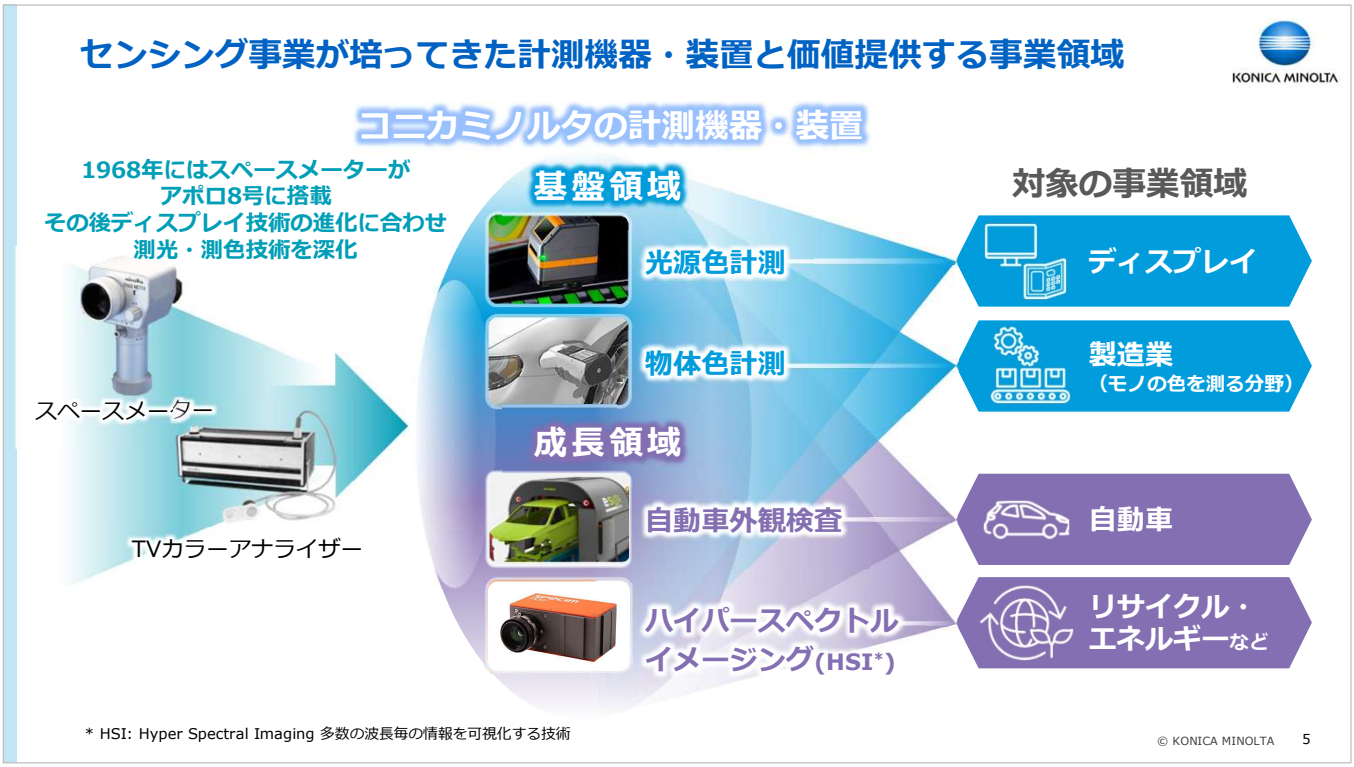
センシング事業について｜事業ビジョン



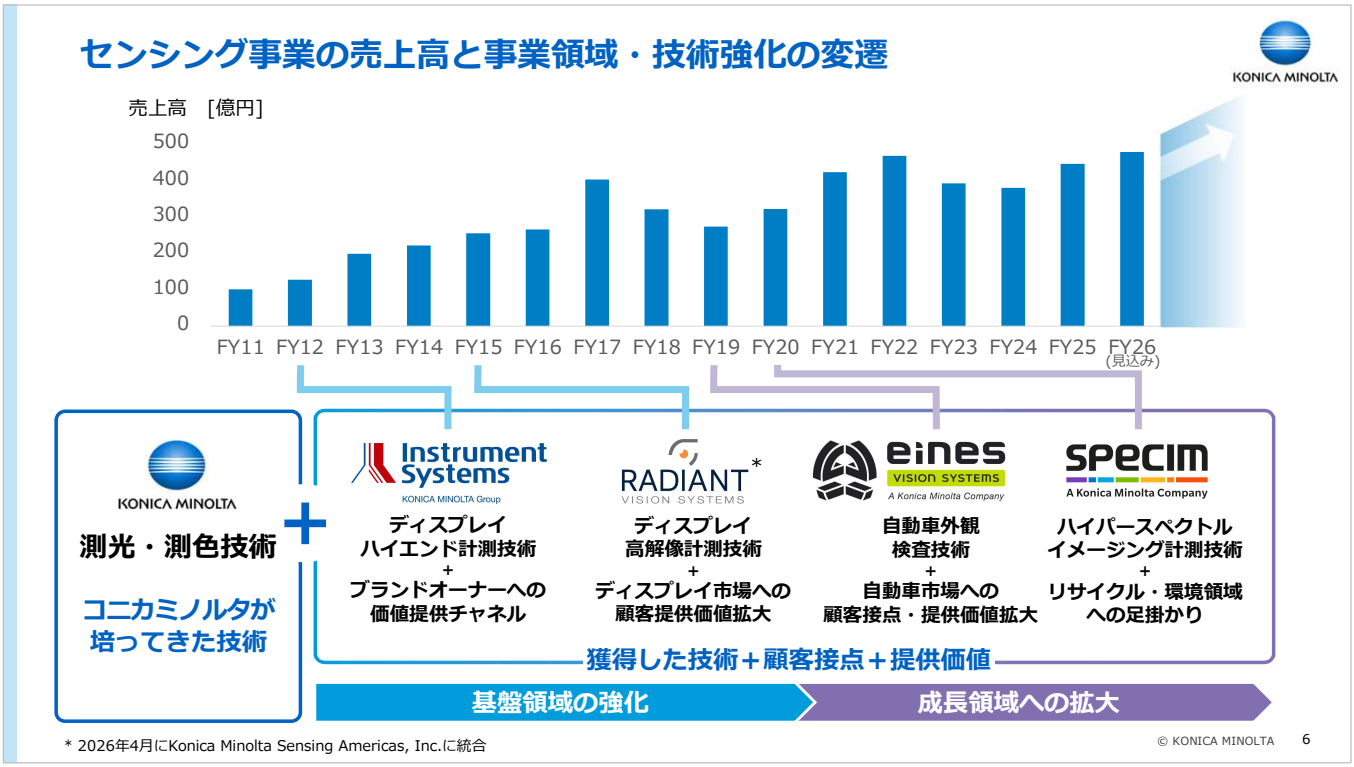
光と色のセンシング技術を駆使し、
顧客の高品質なものづくりと持続可能な社会に貢献

© KONICA MINOLTA

まず、当社のセンシング事業は、「Beyond Our Vision」という事業ビジョンのもと、光と色のセンシング技術を通じて、お客様の高品質なものづくりと持続可能な社会に貢献しております。



このページでは、当社が培ってきた計測機器・装置と、それらを通じて価値を提供している主な事業領域を示しております。
多少古くなりますけれども、エポックメーキングな事象としては、1968年に、アポロ計画で宇宙空間の輝度、つまり明るさを測るため、当社のスペースメーターが採用されました。また、カラーテレビの黎明期には、放送局でテレビ画面の色を合わせるためのカラーアナライザーが採用され、テレビや放送業界の発展に寄与して参りました。
これらの技術は、 現在は、ディスプレイなど自ら光を発するものを測る光源色計測と、さまざまな製品の色や光沢を測る物体色計測へと進化して、基盤領域としております。
さらに、これらの技術を自動車外観検査や、ハイパースペクトルイメージングへと広げてまいりました。また、対象領域も、ディスプレイ、製造業全般から、自動車産業、さらにリサイクルやエネルギー分野へと拡大してきました。
これらに共通しているのは、光を的確に捉え、分析し、品質管理や検査、素材識別など、お客様の判断に使える情報へ変換する技術です。



続いて、センシング事業の売上高と、事業領域・技術強化の変遷についてご説明します。
センシング事業は、自社技術を進化させるだけでなく、必要な外部技術や知見を獲得し、お客様への提供価値に転換することで成長してきました。ここでは、大きく二つのフェーズに分けてご紹介します。
まずは、第一のフェーズでは、基盤領域の強化として、ドイツのInstrument Systems社、米国のRadiant Vision Systems社を買収し、ディスプレイ産業向けの高解像度・高精度な計測技術を強化し、検査工程でデファクトスタンダードを獲得し、皆さんがお使いのスマートフォンを代表とするディスプレイ産業の発展に寄与して参りました。
第二のフェーズは、成長領域への拡大です。スペインEines Systems社、フィンランドSpecim社を加え、自動車市場への顧客接点を広げるとともに、ハイパースペクトルイメージングを活用し、リサイクルや環境などの新たな産業用途への足掛かりを築いています。
結果として、2025年度売上実績は448億円、2026年度は480億円を超える見通しで、成長領域の売上高比率は現在20%程度です。今後も、獲得した技術と顧客接点を組み合わせ、提供価値を広げてまいります。



続いて、センシング事業の強みについてご説明します。当社の強みは、大きく二つあります。
一つ目は、光や色を正確に測り、価値ある情報に変える技術です。具体的には、いつ、誰が、どこで測っても同じ結果を得られる、精度・再現性・安定性です。加えて、お客様の生産速度に合わせて必要な速さで結果を出力し、生産工程に組み込める技術も、当社の強みです。
二つ目は、お客様のニーズを具体的な製品や仕組みに落とし込み、課題を解決する力です。
これら二つの強みは、センシング事業が培ってきた技術に加え、グループ会社の技術や知見も取り込んで、強化してきたものです。特に、大手顧客からの高度な要求に応える開発力と、幅広い顧客課題に応える価値提案力が、当社独自の競争力につながっています。

1. センシング事業概要

2. **基盤領域**
光源色計測と物体色計測

3. 成長領域
自動車外観検査と
ハイパースペクトルイメージング

4. 今後の成長戦略





ここからは、基盤領域である光源色計測と物体色計測についてご説明します。

基盤領域｜光源色計測機器・物体色計測機器の特徴

光源色
計測機器とは





ディスプレイなどの光源の
色・明るさ・ムラを計測

物体色
計測機器とは



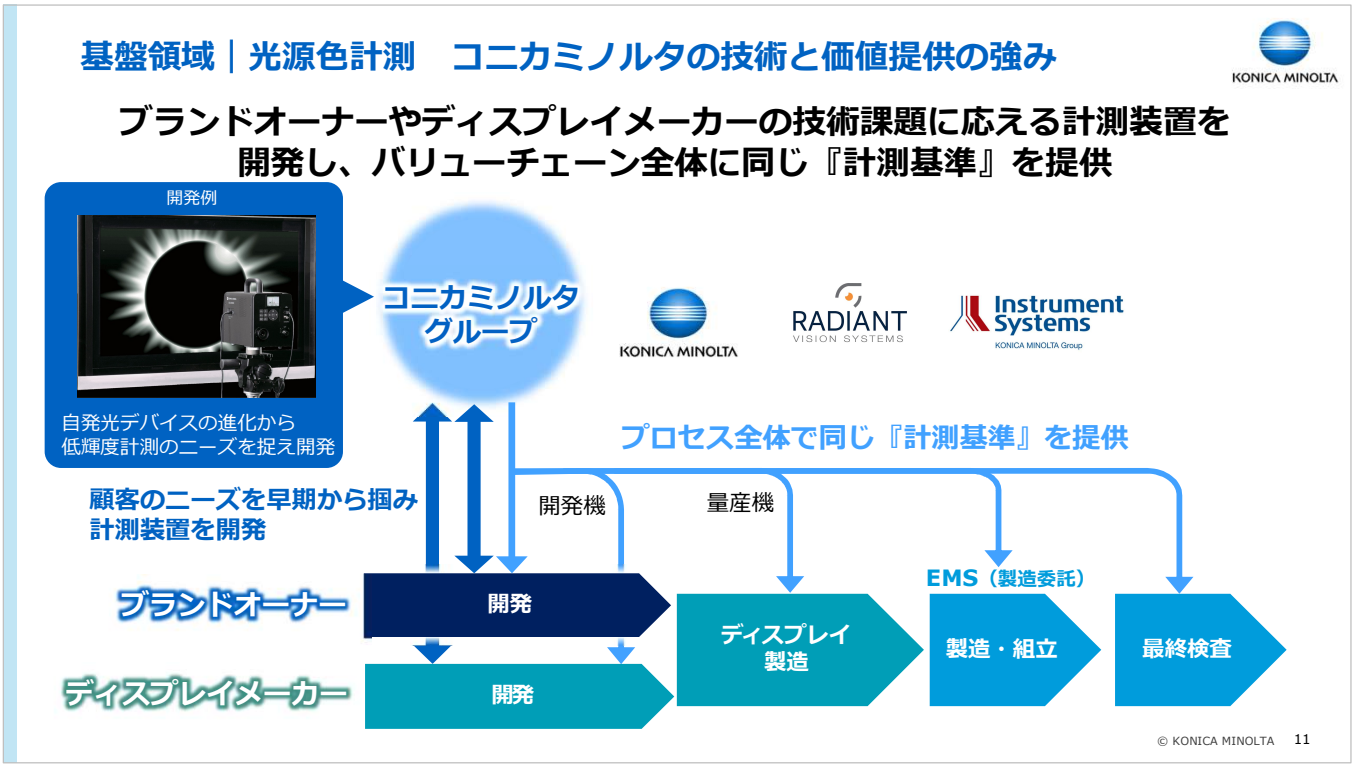
さまざまな製品の
色み・光沢を計測

顧客のニーズ　**いつ誰がどこで測っても正確であることが求められる**

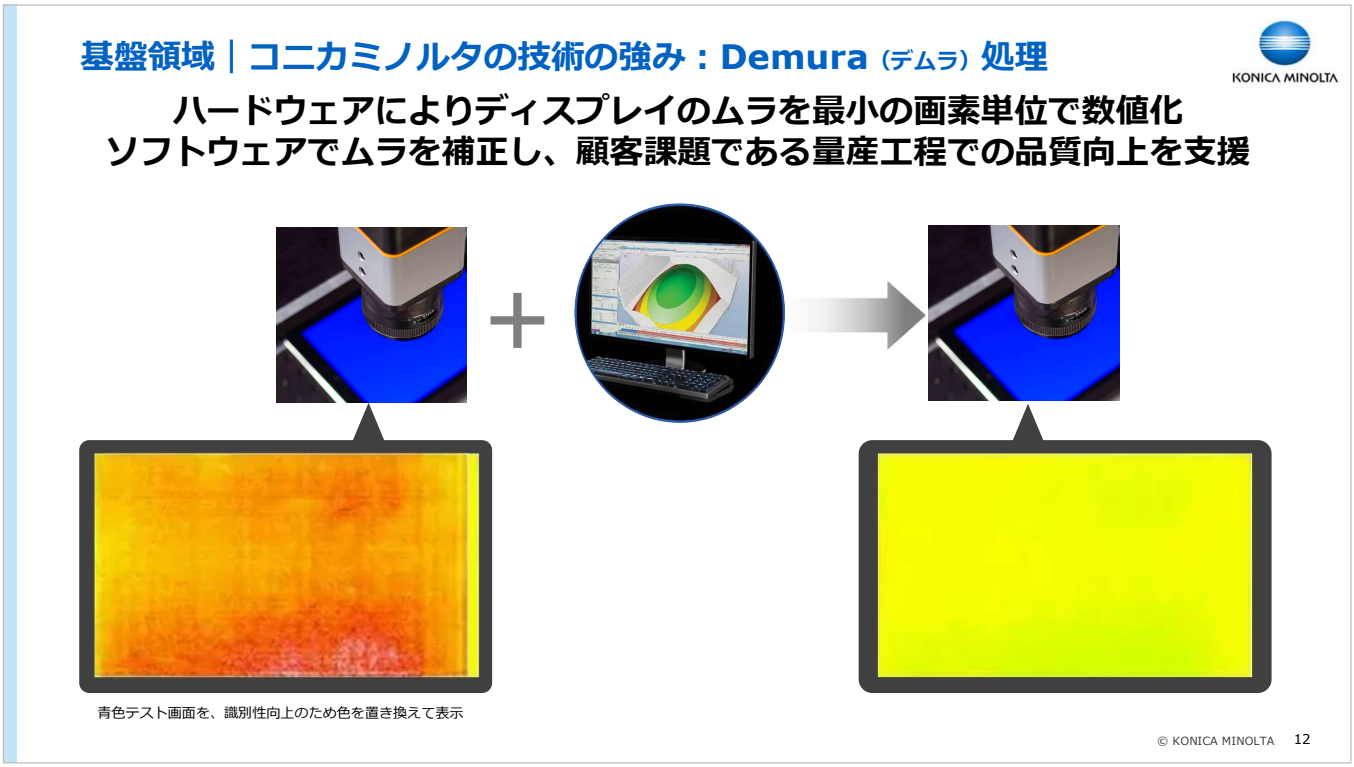
グローバル生産・調達拠点で同じ計測結果	開発と製造工程で同じ計測結果	作業者に依存しない計測結果	時間や環境に影響されない計測結果
モノづくり拠点の多様化への対応	生産立ち上げリードタイム短縮	熟練技術者減少への対応	長期間安定性・信頼性の確保

© KONICA MINOLTA 10

光源色計測機器と物体色計測機器についてご説明します。
光源色計測機器は、ディスプレイなど自ら光を発するものの、色、明るさ、ムラを計測します。物体色計測機器は、自動車の内装・外装、樹脂、繊維製品など、光を反射するものの色や光沢を測ります。
製造現場で問われるのは、いつ、誰が、どこで測っても、正確で同じ結果が得られることです。開発拠点と製造拠点、国や工場、作業者、使用する計測機器が異なっても、同じ品質基準で判断できることが重要です。そのため、環境変化や経時変化の影響を抑え、計測結果そのものを品質基準として使えることが、当社の計測機器に求められています。



ここでは、光源色計測におけるコニカミノルタの技術や価値提供についてご説明します。当社は、ブランドオーナーやディスプレイメーカーの技術課題に応える計測装置を開発し、製造のバリューチェーン全体に、同じ計測基準を提供しています。ブランドオーナーやディスプレイメーカーの開発段階で使う開発機から、ディスプレイ製造、EMSでの製造・組立、最終検査で使う量産機まで、工程をまたいで同じ基準で品質を確認できる体制を整えています。そのためには、業界の技術動向や顧客の技術ロードマップを先取りして、顧客の開発段階での課題解決をしています。例えば、有機EL化が進み、低輝度領域をより正確に測る必要が高まった際には、その技術動向を先取りし、いち早く、顧客の低輝度計測に対応した計測装置を提供してきました。このように、単に計測装置を開発・販売するのではなく、バリューチェーン全体に「共通の計測基準を提供すること」が当社の強みであり、競争力の源泉です。



さて、前ページでご説明した技術の強みを、具体的な事例で一つご紹介します。
光源色計測における代表的な価値提供が、デムラ処理です。デムラ処理とは、ディスプレイに生じる画面のムラを計測し、補正する技術です。ディスプレイでは、スマートフォンやタブレットに代表されるような高精細化と大型化が同時に進んでいます。特にOLEDディスプレイでは、発光素子ごとの明るさや色のわずかなばらつきが、画面全体のムラとして現れます。
ここでの当社の強みは、ハードウェアでの高度な計測とソフトウェアでの補正の組み合わせの技術です。実際には、まず、ハードウェアによって、発光素子一つひとつの状態を高精度に数値化し、その計測結果をもとに、ディスプレイの多様なパラメーターを同時に調整する独自のアルゴリズムを実装したソフトウェアで、補正用データを生成します。このように、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせで、計測から補正まで踏み込むことで、お客様の製品品質の向上に貢献しています。



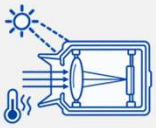
次に、光源色計測における成長戦略についてご説明します。
ディスプレイ市場では、表示技術の進化と、デバイスの多様化が同時に進んでいます。表示技術では、色再現性、高速応答性、低消費電力が進み、さらには、曲面や透明ディスプレイに代表される、薄型化や形状の自由度も高まっています。こうした表示技術やデバイスの進化に伴い、開発・製造の現場では、新たな評価項目や品質基準が必要になります。つまり、技術が進化するたびに、新しい計測ニーズが生まれます。当社は、お客様の開発ロードマップを早期に把握することで、必要となる計測技術を先行して開発・提供し、お客様や産業全体での製品開発から量産までを支えています。さらに、当社のインダストリー事業の事業部門間の連携に応じて、キーアカウントマネジメントを強化しており、ディスプレイの進化や品質管理において、不可欠な計測ソリューションプロバイダーとしての存在であり続けると共に、同業界でのナンバーワンシェアを維持し、継続的な成長につなげていきます。

基盤領域｜物体色計測　コニカミノルタの技術の強み

顧客ニーズである「いつ誰がどこで測っても同じ計測結果」を実現する技術

業界トップクラスの技術力

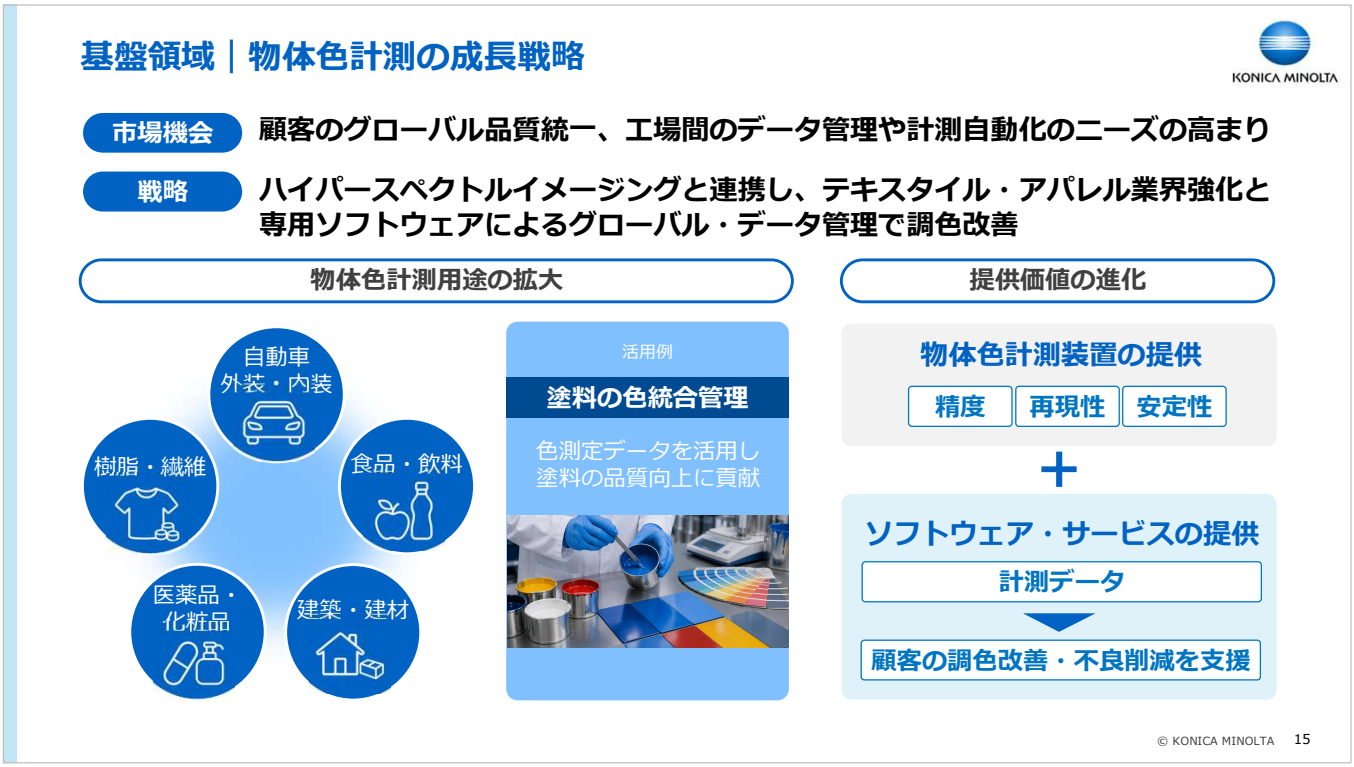
*1 機器ごとの測定値の個体差：BCRAシリーズⅡタイル12色の平均値
*2 白色校正後、白色校正板を10秒間隔で30回測定したとき

精度	ΔE*ab 0.08以内*1		**校正処理** 顧客の要望に沿って 校正・補正できる信号処理
再現性	標準偏差 0.005以内*2		**機構設計** 熟練技術と自動化による 組立工程で器差を抑制
安定性	波長補正機能 長期安定稼働		**光学設計** 温度変化・環境光に強い 光学系設計力

出典：ニュースリリース　高精度・高信頼性を追求した分光測色計の最上位機種「CM-3700A Plus」を発売 | コニカミノルタ

© KONICA MINOLTA

続いて、物体色計測における技術の強みについてご説明します。
ここでは色の計測においても、いつ、誰が、どこで測っても同じ結果を得るために、計測機器に組み込んでいる主な技術を示しています。校正処理では、お客様の用途に合わせて信号を校正・補正し、必要な精度を実現します。機構設計では、熟練技能と自動化を組み合わせた組立工程により、機体ごとの差を抑えます。光学設計では、温度変化や環境光の影響を受けにくい光学系を実現します。これらは単独の要素技術ではなく、設計、製造、校正までを一体で作り込むことで、業界トップクラスの性能を実現しています。さらに、自社のグローバルサービスネットワーク網を通じて、お客様からのご要望にもスピーディに応えることで、お客様からの高い信頼をいただいております。



ここでは、物体色計測の成長戦略についてご説明します。
物体色計測は、自動車の内外装、樹脂・繊維など、ものづくりのあらゆるシーンで使われていますが、今後は、二つのニーズがより一層高まると考えています。
一つ目は、光源色計測同様にグローバルで品質を統一するニーズです。生産拠点が世界各国に広がり、各拠点で同じ基準の計測機器を使い、計測データを共通の言語として共有・管理することが求められます。例えば、飲料ではコーヒーの焙煎状況を色で管理することが可能です。皆さんがご存じのグローバルコーヒーショップでは、世界中で同じ味のコーヒーを提供するために、焙煎の色を管理することで、世界中のどこでも、統一したコーヒーの味や香りを提供し、品質とブランドを管理しています。
二つ目は、検査工程を自動化するニーズです。人が測るのではなく、計測を生産工程に組み込み、安定した基準で効率的に判定できるようにすることです。
当社は、高精度な物体色計測機器の提供に加え、計測データを蓄積・分析するソフトウェアやサービスを拡充してきております。専用ソフトウェアを活用して、塗料の色統合や調色を管理することによって、サプライチェーン全体での品質のばらつき低減につなげております。さらには、ハイパースペクトルイメージングの技術とも連携し、テキスタイル・アパレル業界への展開を強化していきます。計測機器の提供にとどまらず、調色改善や不良削減、さらには、資源の適切な利用、お客様の品質管理やコスト削減を実現し、環境負荷を低減した社会の実現にも寄与してまいります。

1. センシング事業概要

2. 基盤領域
光源色計測と物体色計測

3. 成長領域
自動車外観検査と
ハイパースペクトルイメージング

4. 今後の成長戦略





ここからは、成長領域である自動車外観検査と、ハイパースペクトルイメージングについてご説明します。

成長領域｜自動車外観検査装置の特徴

自動車外観検査装置とは



意匠性の高い、自動車車体の

塗装欠陥・隙間段差・組み立て検査から最終品質検査を自動化

顧客のニーズ　**微細な欠陥を素早く正確に見分けることが求められる**

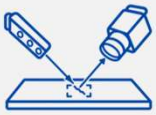
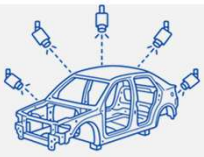
- 多様な車種・デザイン・色に対応
- 車体から微細な欠陥等を検出
- 生産ラインの安全性と速度に対応
- 熟練技能者に依存しない

© KONICA MINOLTA 18

自動車外観検査装置の特徴についてご説明します。
自動車外観検査装置とは、意匠性の高い車体について、塗装欠陥、隙間・段差、組み立て状態の検査から、最終品質検査までを自動化するソリューションです。高品質な自動車生産には、車体の微細な欠陥を素早く正確に見分けることが不可欠です。お客様のニーズは、大きく四つあります。多様な車種・デザイン・色への対応、車体表面の微細な欠陥の検出、生産ラインの安定稼働と速度への対応、そして熟練技能者に依存しない検査です。そのため、微細な欠陥を見分ける検出精度と、生産速度に追従する高速性を両立することが重要になります。

成長領域｜自動車外観検査　コニカミノルタの技術の強み

自動車の生産ラインの速度を止めずに、自動で欠陥を素早く正確に見分ける技術

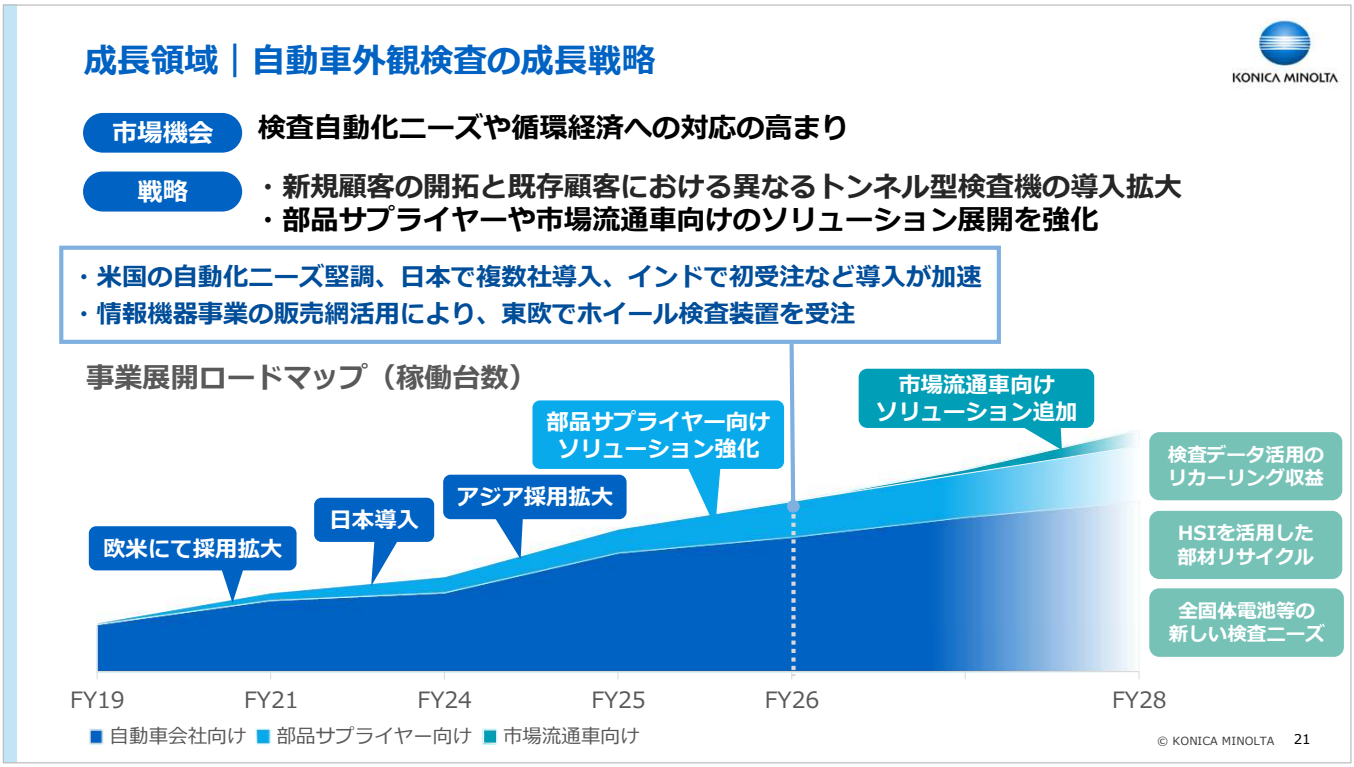
精度		**光学構造** 独自のノウハウに基づく照明設計と反射光の変化から微小欠陥を捉える光学設計
識別		**欠陥識別** 画像AIによる推論でサブミリメートル級の欠陥の種類を識別
高速化		**同期撮影** インラインで4万枚/台の画像を死角なく撮影 高速化するライン速度に対応する開発力

© KONICA MINOLTA

続いて、自動車外観検査を支える技術の強みについてご説明します。
当社は、生産ラインを止めずに、欠陥を素早く正確に見分ける技術を保有しています。まず、照明設計や光学シミュレーションを駆使し、車体からの反射光のわずかな変化を捉えることで、通常の画像では見えにくい微小な欠陥を可視化します。次に、AIを組み込んだ識別技術で、サブミリメートル級の欠陥の種類を識別します。そして、車体の動きやライン制御と同期させて、車両1台当たり約4万枚の画像を撮影します。この大量の画像データを高速に処理し、次の工程にフィードバックする、この一連の総合技術が、当社の強みです。



次に、自動車外観検査における、顧客の課題解決から自動車産業全体への展開についてご説明します。
当社は、自動車メーカーの生産技術部門と連携し、各工程の課題に合わせて検査装置を開発してきました。トンネル型検査機は、2019年の買収時の2機種から、現在は4機種へと拡張しています。さらに2025年には、最終検査で必要な項目を一括して検査できるオールインワンタイプを上市し、導入が始まっています。
左図は、一つの自動車工場における導入例です。プレス、溶接、塗装、組立、最終検査まで、複数の工程で当社の製品が導入され、工程の自動化に貢献しています。2025年には世界での設置台数が3桁に達し、2026年の受注も堅調です。また、トンネル型検査機に加えて、自動車部品メーカー向けの検査機も導入し、自動車メーカーから部品メーカーまで、自動車のバリューチェーン全体への価値提供を広げています。
このように、個別の検査装置の提供にとどまらず、複数の工程や企業をまたぐソリューションへ展開することで、今後の幅広い産業分野への事業拡張につなげていきます。



ここでは、自動車外観検査の成長戦略についてご説明します。今年1月のサステナビリティ説明会でも事業展開ロードマップを示しましたが、本日はその後の進捗と、今後の拡張方向をご説明します。
市場機会は、自動車業界における検査自動化ニーズの高まりと循環経済への対応です。
当社は、新規顧客の開拓と、既存顧客におけるさまざまなトンネル型検査機の導入拡大を両輪として、成長を加速します。また、自動車メーカーの完成車ラインだけでなく、部品サプライヤーや市場流通車向けのソリューション展開も強化します。地域面では、欧米での採用拡大に加え、米国の自動化ニーズが堅調に推移し、日本で複数社への導入、インドでの初受注など、地域やメーカーごとのニーズに応じて展開が進んでいます。さらに、当社の情報機器事業の販売ネットワークを活用し、自動車部品産業が盛んな東欧でホイール検査装置を受注するなど、新たな販路開拓も始まっています。
今後は、検査データを活用したリカーリング収益、ハイパースペクトルイメージングによる自動車部材のリサイクル、全固体電池などの新しい検査ニーズにも対応し、自動車のバリューチェーン全体、さらに周辺領域へと成長を広げていきます。

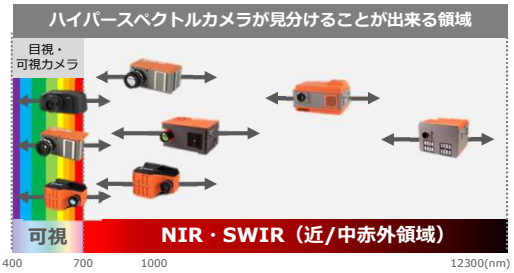
成長領域｜ハイパースペクトルイメージングの特徴

ハイパースペクトルイメージングとは

可視カメラでは見えない波長を捉え対象物の

素材・性質を識別





Specim社の主な製品と波長のカバー範囲

*1 実測データの出力形式は異なる
*2 様々な波長の吸収率の計測結果をもとにライブラリと照合し素材を識別

顧客のニーズ　**多様な材質を見分けることが求められる**

- 黒色・着色材の素材を識別
- 素材の劣化状態を識別
- 混合材・複合素材への対応
- 人手をかけずに大量処理

© KONICA MINOLTA 22

続いて、ハイパースペクトルイメージングの特徴についてご説明します。
ハイパースペクトルイメージングは、可視カメラでは捉えにくい波長情報を取得し、対象物の素材や性質を識別する技術です。通常のRGBカメラが赤・緑・青の情報を中心に捉えるのに対し、ハイパースペクトルカメラは、可視光から近赤外・中赤外まで、細かい波長ごとの情報を取得します。素材ごとに波長ごとの吸収特性が異なるため、見た目が同じ黒色プラスチックであっても、PS、ABS、PEなどの材質を識別できます。さらに、混合材や複合素材、目視では判別しにくい劣化状態まで、人手をかけずに大量かつ高速に識別できる点が、この技術の価値になります。



続いて、コニカミノルタとSpecim社のハイパースペクトル技術の強みについてご説明します。
Specim社の強みは、多様な素材や性質を見分けるための、広帯域・多バンドの計測技術です。可視域から赤外領域まで、400から12,300ナノメートルの幅広い波長を、ナノメートル単位、数百バンドで同時に取得できます。これにより、色や形だけでは分からない、分子レベルの違いに由来する情報を捉えることができます。さらに、蓄積した材質ライブラリとAI推論を組み合わせることで、取得したデータから、その場で材質を識別できます。光学ハードウェア、分光データ、識別アルゴリズムを一体で提供することで、研究用途にとどまらず、生産ラインや選別工程で使える速度と安定性を実現しています。
ここに、コニカミノルタの幅広い顧客基盤やグローバルネットワーク、光学・画像処理・AI技術を掛け合わせます。お客様の業界や課題に応じて、ハイパースペクトル技術の活用価値を生み出し、カメラ単体ではなく、顧客課題に応じたターンキーソリューションとして提供していきます。



続いて、ハイパースペクトルイメージングの成長戦略についてご説明します。
ハイパースペクトルイメージングの市場機会としては、鉱物採掘や次世代エネルギーへの投資拡大、リサイクル法規制の強化、食品の品質管理要求の高まりがあります。具体的な事例としては、地質・鉱物分野では、南米などの採掘事業者向けに、岩石や鉱石に含まれる鉱物の分布や含有率を測定し、資源評価の効率化に貢献する取り組みを始めています。リサイクル分野では、インテリジェント再生材に加え、三菱電機と樹脂材質の選別に関する開発・検証を進めています。また、繊維リサイクル現場での素材自動選別は、イタリアの会社と取り組んでいます。エネルギー分野では、ペロブスカイト太陽電池の膜厚計測による品質管理や太陽光パネルの劣化状態の計測による寿命予測への活用を進めています。
今後は、AI活用と用途ごとのソリューション強化を通じて、成長する産業用途に向けた事業開発を加速していきます。

成長領域｜ハイパースペクトルイメージング × AIの事例

市場機会 欧州リサイクル法規制の強化にともなうEPR（拡大生産者責任）の義務化

戦略 強みであるHSIにAIを掛け合わせたソリューションを欧州を軸に展開

顧客との共創

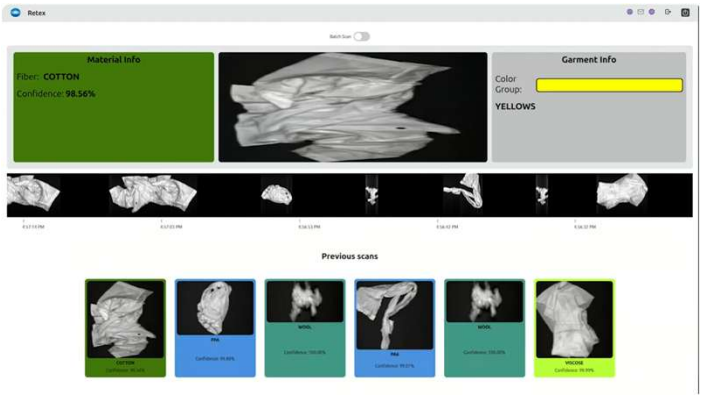
繊維
GOLDEN LADY COMPANY社
レッグウェアの繊維
リサイクル現場で素材を自動選別



価値創出アプローチ



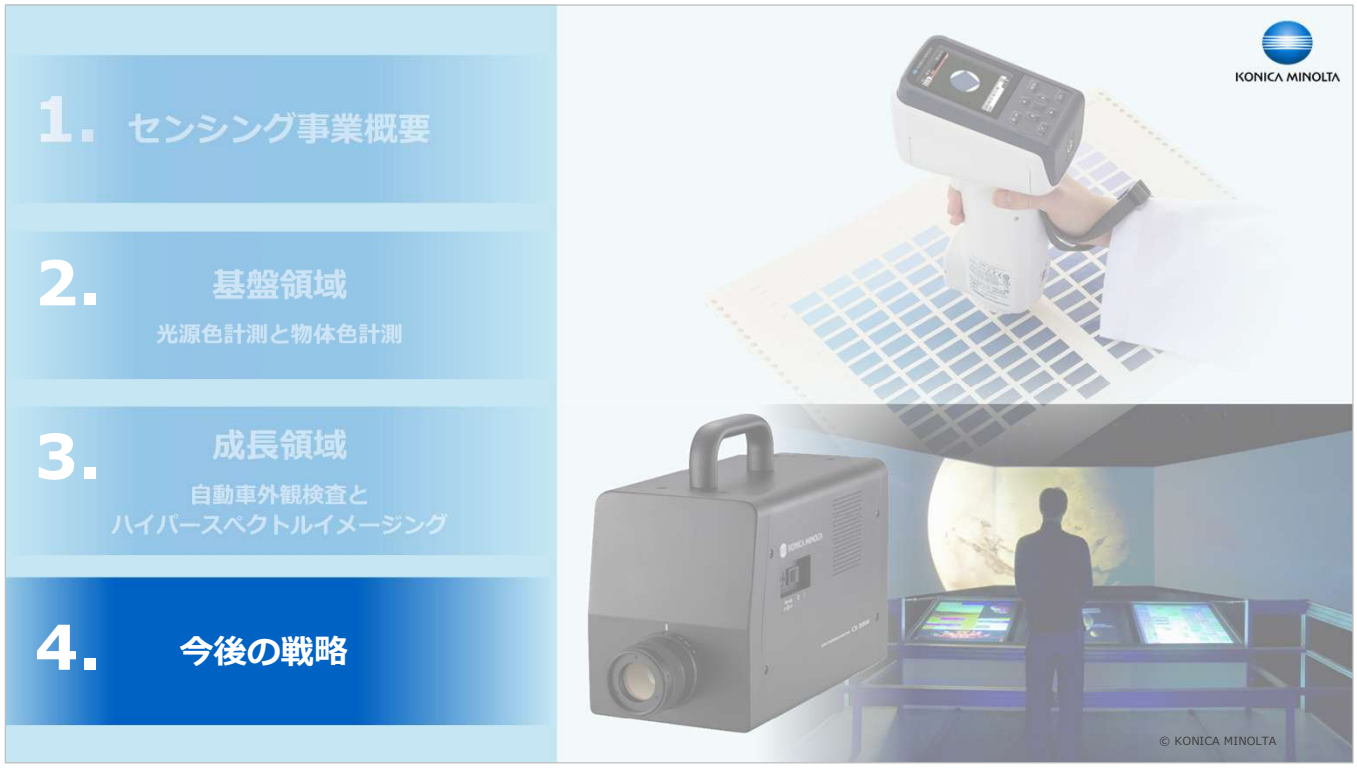
× 材質識別モデル　開発データ



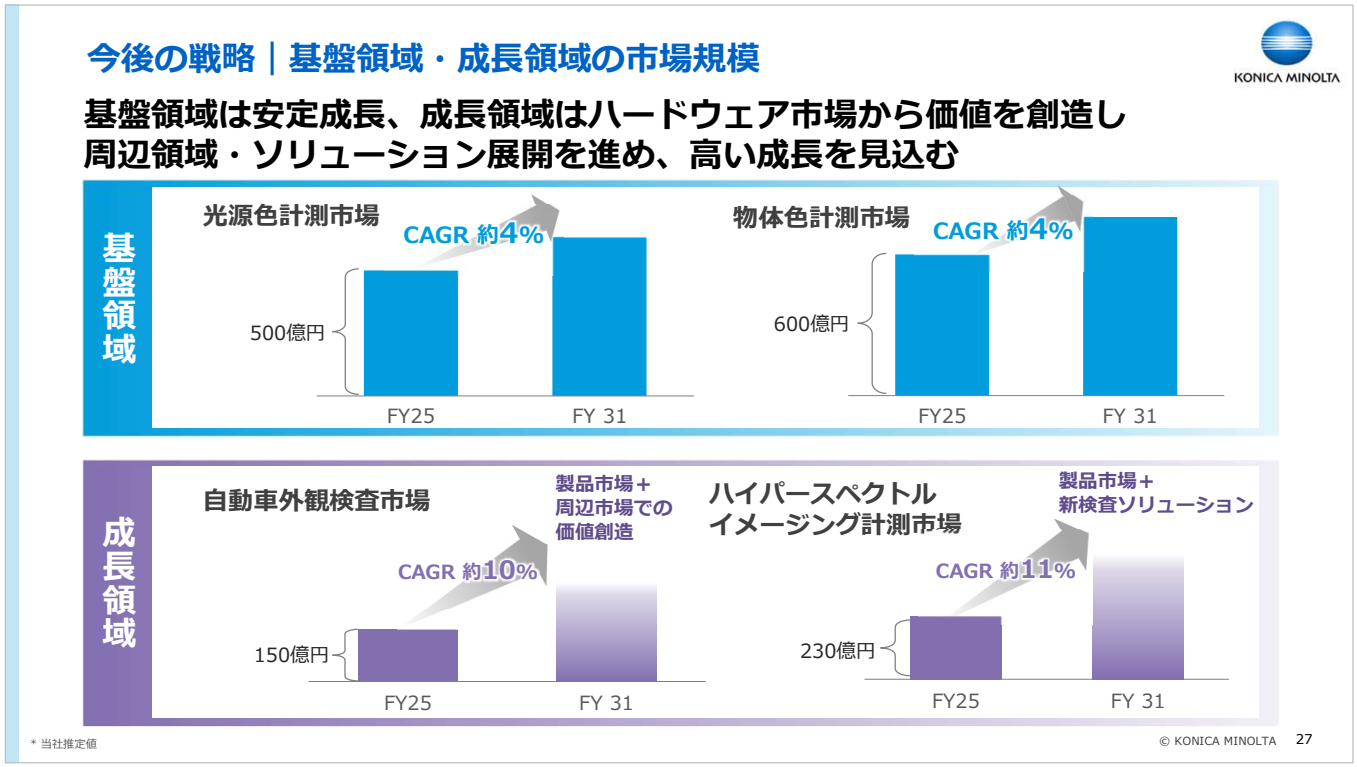
参照：AI-Powered Textile Recognition in Practice | Specim RETEX

© KONICA MINOLTA 25

最後に、ハイパースペクトルイメージングとAIを組み合わせた具体的な事例をご紹介します。
欧州では、リサイクル法規制の強化や、EPR、すなわち拡大生産者責任の義務化により、素材を適切に分別し、再利用するニーズが高まっています。当社は、テキスタイル・アパレル産業が集積するイタリアにおいて、ゴールデンレディ社と、レッグウェアのリサイクル現場で素材を自動選別する取り組みを進めています。ハイパースペクトルイメージングによって、人手に頼っていた選別工程の自動化と、リサイクル品質の向上を支援します。さらに、現場で蓄積したデータを材質識別モデルに反映し、お客様とともにソリューションを作り込んでいきます。この事例を起点に、我々がイタリアで持つ顧客基盤を活用し、テキスタイル・アパレルをはじめとする欧州のリサイクル市場へ展開していきます。



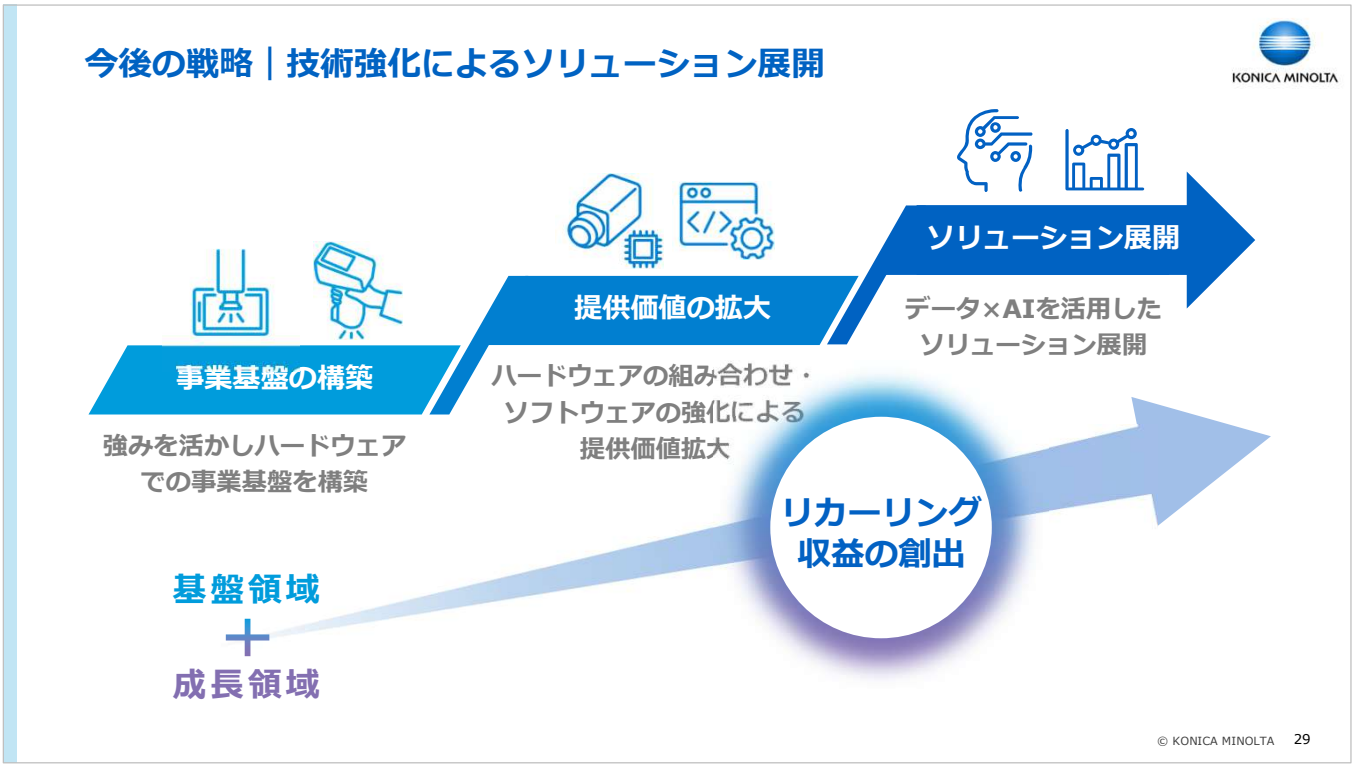
最後に、今後の戦略についてご説明します。



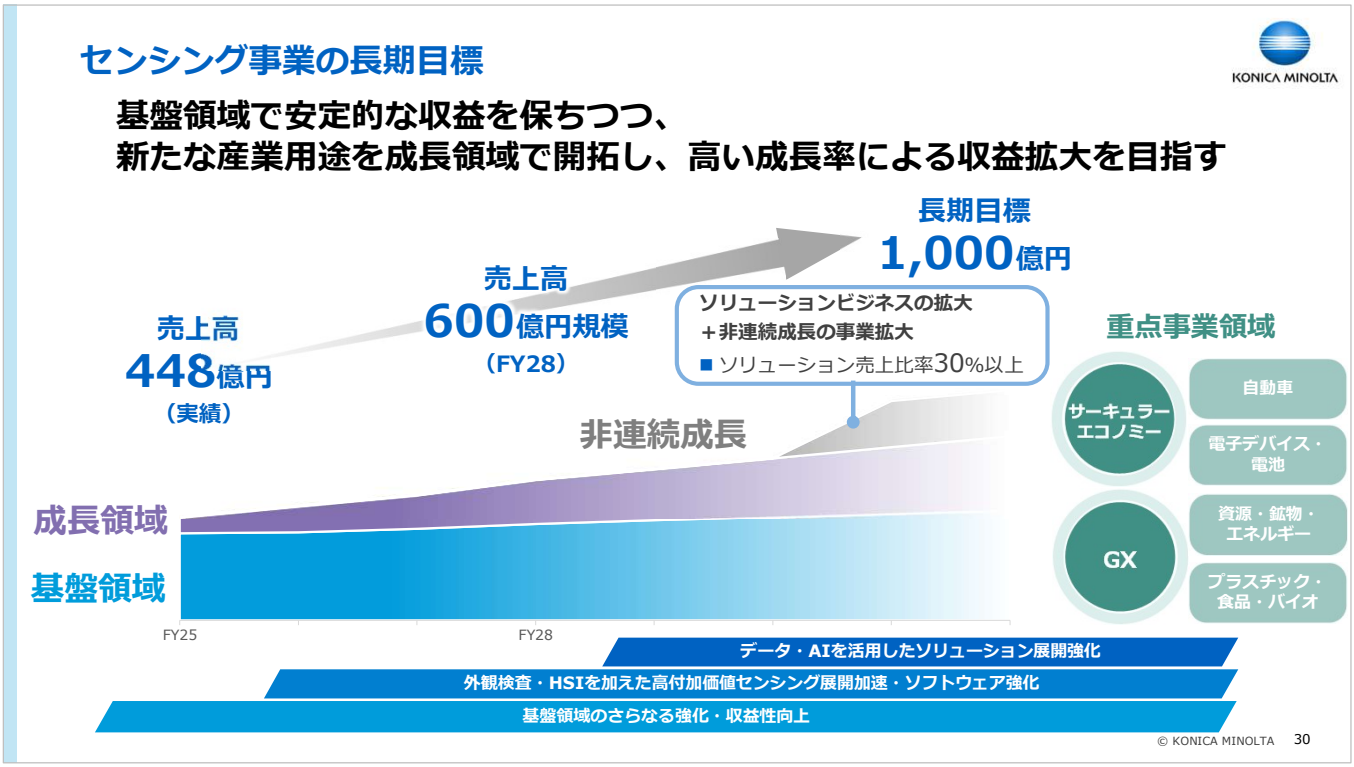
まず、基盤領域と成長領域の市場規模についてご説明します。
光源色計測と物体色計測は、それぞれ年率約4%の安定的な成長が見込まれます。当社は、基盤領域で安定成長と高い収益性を維持し、そこで生み出した収益を、成長領域の技術／人財／販売資源へ再投資していきます。
一方、自動車検査とハイパースペクトルイメージングは、ハードウェア市場だけを見れば、まだ大きな市場ではありませが、当社が目指しているのは、ハードウェア製品の市場規模だけを狙うのではなく、顧客課題の解決を通じて、新たな価値と市場を創造していくことです。
このように、基盤領域の収益性を維持しながら、成長率の高い領域へ経営資源を重点的に配分し、周辺市場を含む高付加価値事業を創出することで、センシング事業全体の成長率と収益性を引き上げていきます。



このページでは、コニカミノルタグループが持つ知見と顧客基盤を、成長領域の拡大にどのように活用するかをご説明します。
第一に、基盤領域で培った技術力／開発力／顧客現場への対応力です。光源色計測では、世界の主要顧客と長期的な関係を築き、顧客の技術課題を早期に把握して開発につなげる、グローバルなキーアカウントマネジメントを蓄積してきました。今後は、この知見や顧客要望に応える現場対応力を自動車検査やハイパースペクトルイメージングにおいても、活用・展開していきます。
第二に、グループの販売網と顧客資産の活用です。東欧の自動車部品業界やイタリアのアパレル産業などでも始まっていますが、情報機器事業のグローバルな販売網と顧客資産を活用し、成長領域を中心に検査装置とAIを組み合わせたソリューションの展開を進めます。



ここでは、技術強化によるソリューション展開についてご説明します。
当社は、これまで高性能なハードウェアを提供することで、事業基盤を構築してきました。今後は、これを三つの段階で、飛び地ではなく地続きに発展させていきます。
第一は、ハードウェアによる事業基盤の構築です。光源色計測と物体色計測では、いつ、誰が、どこで測っても同じ結果が得られる品質基準を支えてきました。成長領域においても、自動車外観検査のトンネル型検査機や、ハイパースペクトルカメラなど、お客様の工程に組み込まれる製品基盤を拡大しています。この点は、引き続き、事業基盤として、継続する部分です。
第二は、ハードウェアの組み合わせとソフトウェアの強化による、提供価値の拡大です。例えば、ディスプレイのデムラ処理の事例でご紹介した、ハードウェアでの計測と、ソフトウェアでの補正、ハイパースペクトルイメージングでは、カメラと材質ライブラリ、識別アルゴリズムを組み合わせのように、単体の計測機器から、製造工程全体の品質づくりへと提供価値を広げていきます。
第三は、データとAIを活用したソリューション展開です。計測データを蓄積・分析し、お客様の業務に直接つながる価値へ変換します。装置を販売して終わりではなく、データ活用や継続的なサービスを通じて、リカーリング収益の創出にもつなげていきます。
この三段階を、基盤領域で培った技術と顧客接点を成長領域へ展開しながら着実に進め、事業の成長性と収益性を高めていきます。



最後に、センシング事業の長期目標についてご説明します。
2025年度の売上高448億円に対し、現中期計画の最終年度である2028年度には、600億円規模を目指します。その先の長期目標として、売上高1,000億円の達成を掲げています。2023年から2024年にかけては、ディスプレイ需要が減退する局面もありましたが、その間も収益構造の転換を進めてきました。今後は、コニカミノルタグループの顧客基盤、販売網、技術などの資産とソリューションを、サーキュラーエコノミーやGXのニーズと掛け合わせ、計測・検査・状態把握の価値を提供し、新たな産業用途を開拓していきます。成長の中心は、自動車外観検査やハイパースペクトルイメージングをはじめとする成長領域です。加えて、データとAIを活用したソリューションビジネスを拡大し、ソリューション売上比率30%以上を目指します。また、必要に応じた、外部技術の獲得や新たな産業領域への展開など、非連続成長も組み合わせます。基盤領域で安定した収益性を確保し、その収益を成長領域と将来への投資につなげることで、売上成長と収益性の向上を両立させ、センシング事業を持続的な成長の中核へ育ててまいります。
私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

KONICA MINOLTA

- 本資料の記載情報

  本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- 将来予想に係わる記述についての注意事項

  本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。